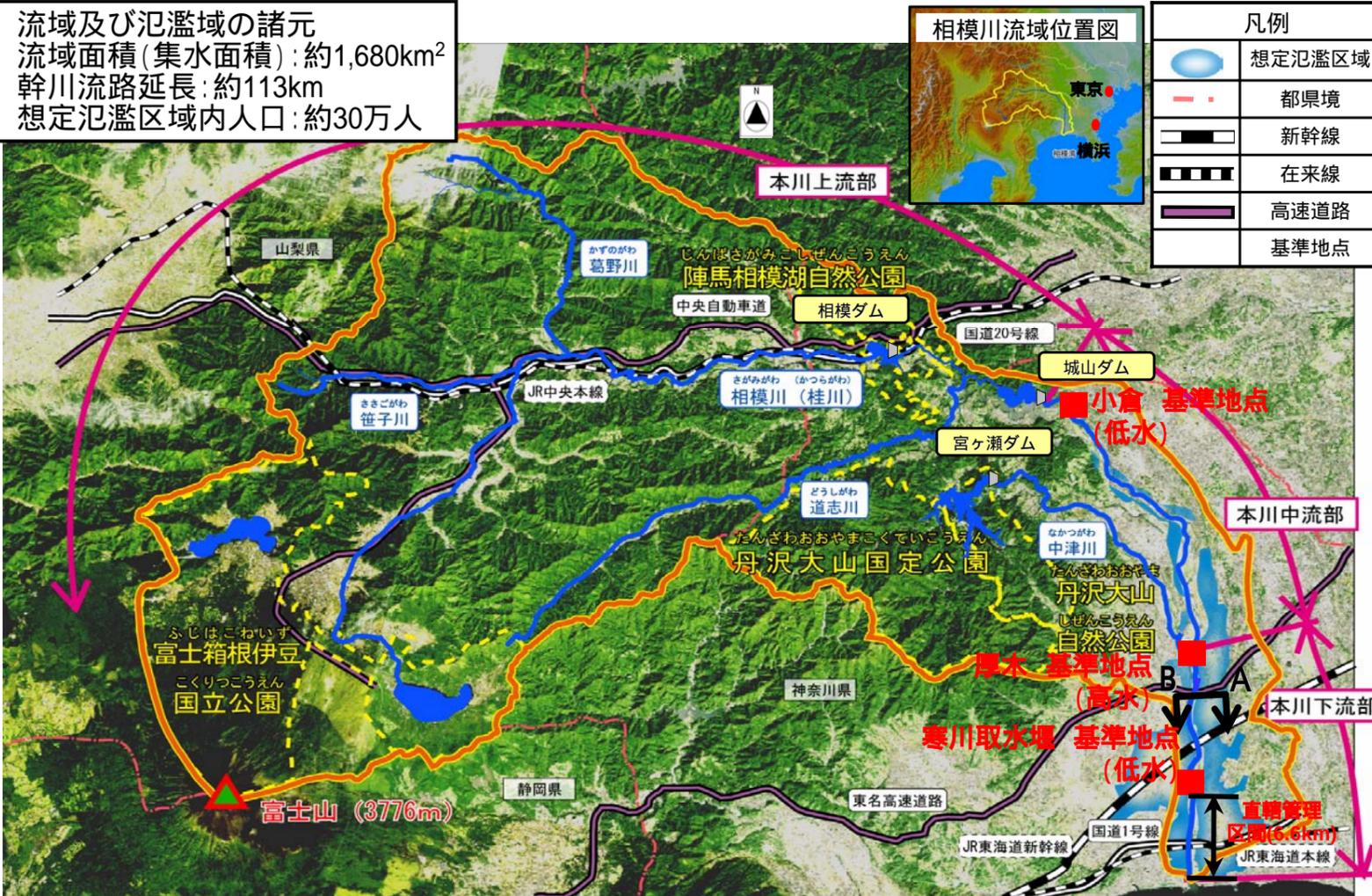


相模川水系河川整備基本方針の概要

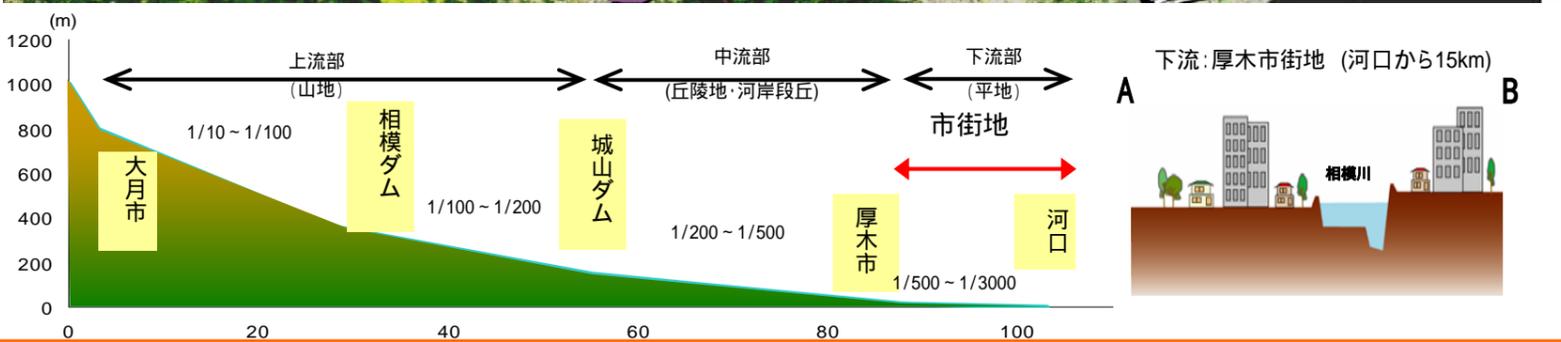
流域及び河川の概要

- 中流部から下流部にかけて市街地が広がり、特に下流の平野部に人口・資産が集中し、一度氾濫すると甚大な被害が発生。
- 流域の降雨量は全国平均程度。上流部は火山礫など透水性の高い地質で、降雨や降雪の多くが地下に浸透し伏流水となり、忍野八海や山中湖等を形成。

流域及び氾濫域の諸元
 流域面積(集水面積):約1,680km²
 幹川流路延長:約113km
 想定氾濫区域内人口:約30万人



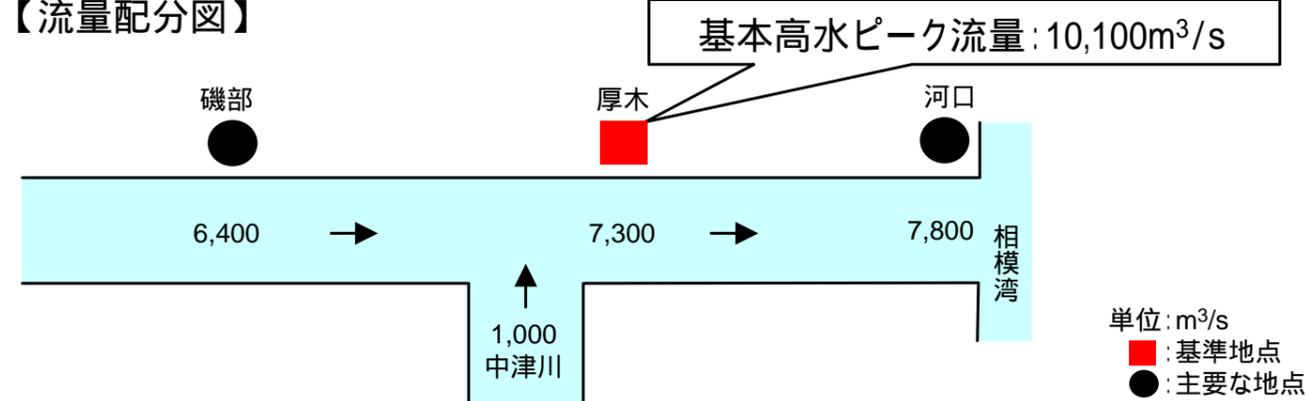
凡例	
	想定氾濫区域
	都県境
	新幹線
	在来線
	高速道路
	基準地点



災害の発生の防止又は軽減

- 工事实施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、基本方針においても既定計画と同様に基本高水ピーク流量を基準地点厚木で10,100m³/sと設定。

【流量配分図】



基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設施設の有効活用により対応
 三川(相模川、中津川、小鮎川)合流付近で河道を拡幅し、流下能力を確保
 無堤部区間及び堤防断面が不足している区間で堤防を整備
 相模湾は高潮が発生しやすい地形であり高潮堤を整備

河川環境の整備と保全

ヤマメ、カジカ等の渓流魚が生息・繁殖する上流部では、良好な渓流環境の保全に努める。
 中流部では河床の掘削形状に配慮して、アユ等の生息・繁殖場となる瀬・淵の保全及びカワラノギク等の河原固有の動植物が生息・生育・繁殖する礫河原の保全を図る。
 シギ・チドリ類等の渡り鳥の中継地となっている河口干潟の保全・再生に努める。
 土砂移動と密接に関わる課題に対処するため、総合的な土砂管理を進める。



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する。
 流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、小倉地点ではかんがい期は概ね20m³/s、非かんがい期は概ね10m³/s、寒川取水堰下流地点では、年間を通して概ね12m³/sとする。